

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	渋谷区神宮前3-18-8
園名	渋谷区立渋谷保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

昨年度も自然をテーマに探究活動をしてきた中で、5歳児クラスの子供達は「まだ土粘土に触れていきたい」「割れないように作りたい」などまだ自然の探究を続けたい思いがあった。3.4歳児クラスもその都度、どのような探究をしたいか話し合い決め、自然をテーマに取り組んできた。

2. 活動スケジュール

5歳児クラスは、4月中旬～7月頃に行い、4人ずつのメンバーで4巡目まで行う
3歳児クラスは、9月～10月に行い、3～4人のメンバーで3巡目まで行う
4歳児クラスは、12月～2月に行い、3～4人のメンバーで4巡目まで行う

1巡目が終わるごとに、子供たちと友だちの活動を共有する振り返りを行ったり、探究活動後には、職員が振り返りを行った。また職員全員がどのような探究活動をしているか共有できるように、園内研修として、職員の振り返り時に一緒に参加し、色々な視点や感想を出し合う機会を設けた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

花や木の実、砂、図鑑、虫眼鏡、マイクロスコープ、ライトテーブル、土粘土、絵の具、紙などを用意した。また、各クラスにミニアトリエとして、光の探究ができるようコーナーを設けた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

5 歳児クラス

「土粘土で海をイメージしながら形を作ってみよう」

土粘土に触れながら、自分達が作りたい生き物を、図鑑を見ながら作成し、日本陶芸倶楽部で本焼きまでの工程を行う。

3 歳児クラス

「自分や友だちが持ってきた自然物をじっくり見たり自然について考えてみたりする」

夏の休みの間に保護者と一緒に自然と思うものを探して持ってきてもらった。自然物をマイクロスコープや虫眼鏡を通して、色や形、匂いなどを本物と見比べて見たり、模様が〇〇に見えるイメージを話したりしてきた。

4 歳児クラス

「自然の色ってどんな色？光や道具を使って自然の色を考えてみる」

自然の色（赤・緑・黄色・茶色）を親子で探して持ってきてもらった。

光や虫眼鏡、マイクロスコープでじっくり見ることで、持ってきた自然物の色（葉っぱや実）以外にも色があることに気付いたり、絵の具で自然の色を作り、色を分けてみた。

また、保護者会を通して、保護者の方に探究で行ったことを紹介したり実際に触ってもらったりする機会も設けた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

クラスでは発言が少ない子が探究活動では、気付いたことを話してくれる。また、子供たちとの振り返りでは、他のグループの活動を見て「やってみたい」という姿や「次の振り返りでみんなが何をしたか見えるよね？」と振り返りを楽しみにしている姿があった。

・顕微鏡で見る自然物を「〇〇に見える」などの表現になり、同じ物と捉えていない子もいた。「貝殻は白いのに顕微鏡で見ると黄色い」と気付く子もいた。

・死んでいる虫を見て「死んだら飛ばないんだよね？」という子に「生き物の病院に行けばいいんだよ」という子がいた。自分の経験（怪我をしたら病院へ行くなど）を話している。

・同じ緑でも子供たちは「濃い緑」「薄い緑」「ちょっと濃い緑」「〇〇色に似ている」などに分ける。子供たちにとって同じではない。(同じ色でも感じ方が違う)

5. 振り返り



<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子供たちは前回の活動をよく覚えている。
- ・少人数だからこそ、話が聞け、自分の言葉で表現ができる。また、アトリエは安心して発言できる場。失敗はないので、じっくり考えて試すことができる場。クラスではなかなか難しい。
- ・子供たちの表現は、今までの経験や見た物を言葉にしている。経験や本物に触れることは大事だと再認識した。
- ・家から持ってきた自然物を「自分のもの」として愛着を持つが、みんなでも共有ができる。
- ・3歳児はまだうまく言葉で表現ができないからなのか、オノマトペが多い。自分の知っていることを最大限伝えようとしている。
- ・活動のメンバーも大事。
- ・素材や探究で使う道具の取り合いが見られない。クラスでは見られるが、探究ではないのはなぜなのだろう？
- ・保育士が問いかけなくても、子供たちで疑問を持ち、疑問を試している。また、日々の生活の中でも答えを言うのではなく子供が考えられるような問いかけをすることで、考える力がつくのだと思う。
- ・はじめ、正解（ゴール）は何かと考えて声掛けに戸惑ってしまうこともあったが、答えはなくてもよいと少しずつ活動をして分かってきたことで、声掛けができるようになってきた。